



empublic Studio レポートⅣ

2024年11月～2025年11月

<https://empublic-studio.jp/>

empublic Studioの年間レポートも4冊目となりました。これもStudioメンバーの方にご参加いただいているからこそです。改めてスタッフ一同から感謝を申し上げます。

今年もStudioでは「問いを言葉にし、対話を通じて広げる」「自分と社会の関係を問い直し、行動につなげる」ことを軸に展開してきました。

今年の特に印象に残っているのは「対話」をテーマにした連続プログラムです。4冊の書籍をベースにみなさんと対話することで、改めて対話とは？を考え、異なる価値観を持つ人と話す難しさ、分断を超えるためのプロセスなどを深く考えました。メンバーの「私は本当に対話をしてきたか、考えさせられた」という声に私も共感しました。

夏から秋にかけては、地域の現場を訪ねるプログラムを実施しました。MIDOLINOのシェアキッチンやSync Happinessのコミュニティ拠点など、地域の中で新しいつながりを生み出す実践に触れ、「まち商い」「福祉と地域の境界をなくす工夫」について議論し、現場体験の大切さを改めて感じました。

また、個人のキャリアに関するプログラムも充実しました。「キャッチフレーズづくり」や「仕事観を言葉にするアプリ」などを通じて、自分の価値観や働き方を整理する取り組みです。

また、Studioメンバーが「自分の気になるニュース」を話すPodcast「ニュースの扉」は、前から思っていた企画がやっと実現できたものです。各回、ヒントが多く、興味深いものであり、多くのメンバーの方に出演いただきたいと思っています。

Podcast、仕事観アプリやお散歩トークアプリなどアプリ開発は地域でのデジタル活用の新しい仕組みへのトライです。みなさんのお考え、してみたいこともお聞かせください。

こうした活動を行いながらも、今年は春からStudioのシステムのバージョンアップを宣言し、開発を進めながら、公開に至らなかったことは残された課題です。アーカイブ動画やツールをもっと使いやすくし、よりみなさんの実践につなげるものにしたいと考えています。そして新しい仕組みを活かし、多様な方に参加していただいているStudioから新しい動きをどんどんと共創を進めたいと考えています。

Studioは、みなさんの問いと実践が集まる場を目指しています。あなたの現場で生まれる気づきやアイデアをぜひ持ち寄ってください。問いから共創への動きを一緒に始めましょう！

2025年12月1日

エンパブリック代表 広石拓司

目次

	page
【自分自身のことを言葉にしてみる】	2
・ 自分のキャッチフレーズをつくろう！	
・ 自分のアイデアを400字のメッセージにまとめる	
・ スタジオメンバーの「気になるニュース」をシェアするラジオが始まりました！	
【コミュニティを改めて考える】	3
・ 今どきのコミュニティ論	
・ 地域コミュニティ運営講座	
・ 多摩発！住宅地コミュニティの未来戦略 フィールドスタディ	
【市民を改めて考える】	4
・ 暮らしの中にある“市民らしさ”って？	
・ 分かち合い、共に生きる地域を実現するための 社会・経済のシステムとは？	
・ 一語一歩100回記念交流会「気になる事はから始める地域、 仕事、自分との新しいつながり方」	
【対話を改めて考える】	
・ 「対話」には何ができるのか？を書籍を基に考える	
【「複雑さ」との向き合い方を考える】	5
・ 解決策を考える前に問いかけたいこと	
・ 社会問題の複雑さに挑むための 思考と実践のフレームワーク	
・ 「わかりあえない」から始まる対話ファシリテーション講座	
【組織の運営力を高める】	
・ 知識の共有・創造・活用（SECIモデル）の実践	
・ 事務局ってなにをするの？	
【ソーシャルアクションを応援！】	6
・ 冊子「readiness for 2025」から社会の変化を考えよう！	
・ ソーシャルアクションファーストステップ講座	
・ 事業化の方策を考える「ソーシャルアクセル道場」	
・ 社会課題解決の事業化・相談会	
【ライフキャリアを豊かなものにするために】	7
・ 自分の「仕事観」を言葉にするアプリを開発！	
・ 一人ひとりが活かされる職場づくりへコミュニケーション を活性化！	
・ 育休後カフェ®ファシリテーター養成講座 など	
【スタジオコンテンツ大解剖！】	8
・ ふりかえりが必要な理由は？	
・ ワークショップデザインシートを効果的に使うには？	
・ ファシリテーターとコーディネーターの違いって？	
【対話の広場】	9
・ スタジオワールドカフェ	
・ AIを対話でどう活かせばいいか・	
・ 今、気になることで対話する	
【Studioラジオ】	10
・ empublicの「一語一歩」	
・ Ideas meet policy～使える政策ナビ	

5年目の empublic Studioも、みなさんと一緒に創っていきたいと考えています。
引き続き、よろしくお願いします！

ワークショップ+アーカイブ動画、ワークシートも利用可能！ますます充実していきます。
2026年1月に新プラットフォームがスタートします！

empublic Studioメンバー参加登録 募集中

年会費4,840円(税込)で、コンテンツ利用、セッション参加、講座やゼミへの割引参加ができます。

参加登録はこちらから <https://empublic-studio.jp/entry>

お問合せは、info@empublic-studio.jp まで

1年経過した方は更新をお願いします。

カード決済の方は自動更新となります。

年会費の期限が近づくとメールでご連絡します。

迷惑メールに入る場合があります。ご確認ください。

empublic Studio レポートⅣ 2024年11月～2025年11月

発行日：2025年12月9日 発行：株式会社エンパブリック

編集：広石拓司、中村絵美

スタジオを使って、改めて自分自身のことを言葉にしてみませんか？

自分のキャッチフレーズをつくろう！

メンバー特典としての「自分のキャッチフレーズをつくろう！」では、スタッフの中村のインタビューを通して、自分の経験の棚卸をした上で、自分の「思い」や「強み」を表現する「私のキャッチフレーズと一緒に作っています♪」スタジオに参加した方には中村からお声かけします。未だの方も、ぜひ！

キャッチコピーの作り方はこちら

empublicのワークシート「“次の私”へのパーソナルブランディング」を使って、中村が

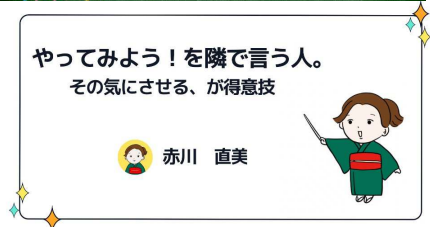
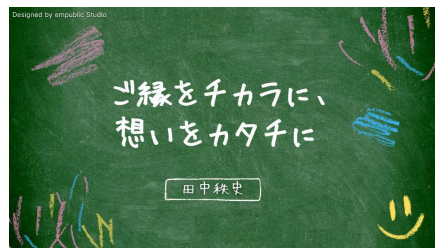
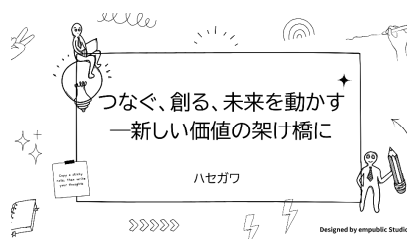
- ・これまでの自分
- ・今の自分
- ・これから

についてお話をお聴きします。その上で、「これから任されたい仕事」は何かを考え、それを踏まえて、自分のキャッチフレーズを作成します。

参加いただいた方から

- ・自分をふりかえる良い機会となり、とても有意義な時間でした。
- ・自分自身の再発見になりました！
- ・最高の応援メッセージ、大きな勇気をいただきました
- ・名刺にアピールとして入れます！
- ・改めて今後自分の進むべき進路を可視化して頂いたような気がします
- ・キャッチコピーを背負う自分自身に、応えてあげようと思います。

《studioメンバーの皆さんのキャッチフレーズの例



自分のアイデアを400字のメッセージにまとめる

2025/10/1

参加者同士がペアとなり、今の問題意識、実現してほしい未来、自分にできることについての5つの問いをお互いに質問し合い、自分の思いを言葉にしていきます。それを基に、自分のしたいことを400字のメッセージ（約1分で話せる！）にまとめます。普段は漠然と考えていることを言葉にするチャンスです。今年は10月に開催しましたが、今後も定期的開催します！

スタジオメンバーの「気になるニュース」をシェアするラジオが始まりました！



empublic Studioメンバーが、それぞれの視点から「気になったニュース」を持ち寄り、その背景にあるストーリーや課題を掘り下げる番組です。メンバーがどんなことに興味を持っているかを知り、各回の問いかけと一緒に考えてみませんか？そして、メンバーの方はぜひご出演ください！
*聞き手：栗原彩乃さん 第2・4水曜11時に新エピソードを配信！

<25年9月～11月配信のエピソード>

#7 “役に立つ”上手になるばかりの教育で、幸せな人を増やせるの？

～社会教育士・書道家 山口須合綾子

#6 スマホ禁止条例から考える現代の合意形成に必要な事

～合同会社あおときいり代表 坂本文武

#5 「循環葬」から多死社会のことを考えてみませんか？

～NPO法人職員 堀田美華

#4 孤独・孤立を感じる人が増える社会で何ができる？

～NPO法人ソニリッサ代表理事 萩原涼平

#3 葬儀、火葬にかかるお金、知ってますか？

～NPO法人エンディングノート普及協会理事長 赤川直美

#2 日本の人口減少、身近な暮らしへの影響は？

～NPO法人市民プロデュース理事長 平田隆之

#1 AIは学びのパートナーになるの？

～株式会社エンブリック体表取締役 広石拓司

お便りも募集中！
こちらから

Spotify



Apple Podcast



イマドキのコミュニティ論 ～ 分断を超えてつながるために

empubliC

広石 拓司

hiroishi@empubliC.jp

ご近所のつながり未来ラボ・スターター編

地域コミュニティ運営 実践講座 (45分×全8回)

“これまで通りの運営”から、
“これからを見据えた、私たちの運営”へ



2025/10/8

コミュニティは地域や組織で長く一緒にいる人が経験を多く共有し、わかりあえる関係でつながるものでした。しかし、現代では「価値観が多様化する中で関係性を育てながら柔軟につながるコミュニティ」が求められています。今の社会で「つながる」とはどういうことか？また、価値観の違いから分断が起きやすい中で、それをどう乗り越えていけばいいか、考えました。

2025/06/10～ 全8回

ご近所のつながりをベースにした活動を担う方が、自分たちの地域の現状を見つめ直し、これまでの運営に縛られず、「私たちの運営」にアップデートするために、目的の確認、イベント運営、役割分担、情報発信、予算管理などの“地域活動の運営の基本”を学びながら、自分たちの活動をふりかえり、これからを見通した改善ポイントを考える講座を開催しました。

*ナビゲーター：二宮雄岳

郊外住宅地のこれからに必要な活動を考える

郊外住宅地は、会社員の夫と妻、子ども2人を典型例とする“平均的な”ライフスタイルを前提に構築されてきました。しかし、単身世帯の拡大、高齢化、価値観の多様化によって前提が変わり、それは 地域コミュニティの弱体化にもつながり、課題も広がっています。郊外住宅地のこれからを考えるヒントとなる東京多摩地域の2事例を、現場訪問も含めて紹介し、住宅地のこれからを考えました。



2025/10/15 & 11/9

暮らしの身近にあるまち商いのお店の意味とは？

東京都武蔵野市にあるシェアキッチン「MIDOLINO」は、三鷹駅からバスで15分の場所にある老舗商店街の中で、「食に関するビジネスをやりたい人が自分の商いを試せる場」「食をきっかけとした交流の場」の拠点として展開しています。このお店から近隣に3店舗がそれ以外も含めて20以上の事業が生まれました。主宰の舟木公一郎さんは、まち商いが暮らしの近くにあることで、人がつながるきっかけが生まれる。それには、まち商いが持続できる力を持っていないといけないと考えて展開しています。

現場訪問では、日曜夕方に誰でも食堂が開かれると、日頃は人通りの少ない商店街が親子であふれ、それを地域の人が支えている姿を拝見できました。



2025/10/22 & 11/8

福祉と地域が境界を曖昧につながるコミュニティ

府中市の多磨霊園地区に、訪問看護、居宅介護支援、カフェや空き家を活用したコミュニティ拠点の3つの事業を展開する「Sync Happiness」の事業を立ち上げた理学療法士の糟谷明範さんの経験をお聞きし、実際に現場を訪問しました。ケアの正しさを押し付けるのではなく、さりげなく一緒にいる関係づくりを、試行錯誤しながら実践している糟谷さんの姿から、専門職や社会活動と地域との関係の持ち方に多くの示唆を得ました。

「市民」を改めて考える



「えらい人」による市民社会から「分かち合い、共に生きる地域」への市民観のシフトを考えよう

empubic 18th Anniversary & 書籍「市民的コモンズとは何か」出版記念イベント (1)



これからの社会の贈与、コモンズ、市民性を考えよう

empubic 18th Anniversary & 書籍「市民的コモンズとは何か」出版記念イベント (2)



意識高い人としての「市民」ではなく、暮らしの中で大切なことを大切に「市民らしさ」とは？

2025/05/9

「市民」というとボランティアやNPO活動や政治等に積極的に参加する「意識高い系」のイメージがあり、なんとなく縁遠いと感じている人が多いのかも。

市民社会を研究してきた駒澤大学教授の李妍焱さんは、森や公園、銭湯などを街の共有財産として捉え、地域の人たちと共に守り、活用する地域プロジェクトが各地で始まっている姿を見て、「市民的コモンズ」という概念を提案しています。この言葉をヒントに、**私たちの暮らしの中にある“市民らしさ”をどう捉えなおすのか**、李先生らと考えました。

2025/05/30

コモンズや脱成長、ギフト経済などの考え方が提唱され、共感や関心も高まっています。ただ、そのような活動はコミュニティとして成立しつつも、経済・社会を動かすまでは至っていないようにも思われます。

「分かち合い、共に生きる」の価値を大切にすし、それを社会と経済のシステムとするには何が必要なのか、贈与や共同社会、地域ネットワークの経済社会学を専門にする古市太郎さん（昭和女子大学）と考えました。

2025/09/07

「一語一歩」の聞き手である長谷川奈月さんは、毎回の収録を通して「今の時代は一人ひとりが社会に向き合うことが大切だ」と感じたと話します。そこで100回に向けて「民主主義」や「パブリック」をテーマにしました。また100回記念には、「国分寺で市民として生きている」と発信している社会教育士の諏訪玲子さんをゲストに地域と自分とのつながりについて話しました。当日の話は「#104 社会教育」「#105 市民として生きる」として番組で配信もしました。番組を改めて市民、民主主義を考えるヒントにしていだけたら！

「対話」を改めて考える



4月<プレ会> 対話の何が疑問？

4月：平田オリザ著「対話のレッスン」

5月：平田オリザ著「対話のレッスン」

「わかりあえないことから」

コンテキストとは？

6月：対話の文化を広げるには？

7月：オープンダイアログとは？

書籍や動画で学び、ワークも体験

8月：書籍「イルカと否定神学」

対話で人の中に何が起きている？

9月：書籍「分断と対話の社会学」

対話の難しさとの向き合い方

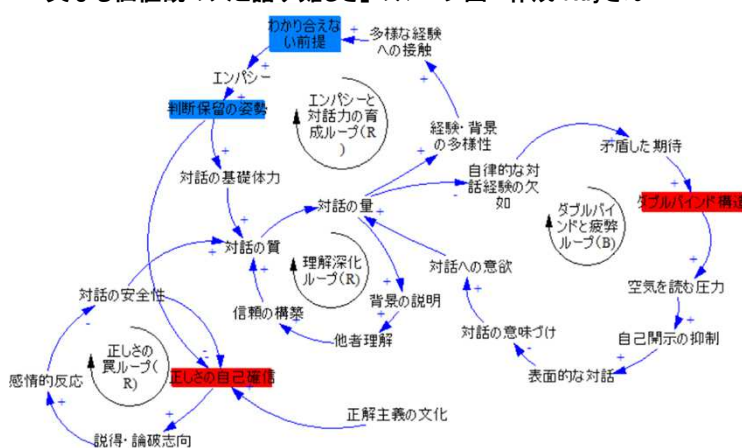
会話と対話の違いは？異なる考えの人との対話とは？
対話のプロセスで、何が起きているのだろうか？

2025/04/23～9/24（全6回）

対話の大切さが高まると同時に、対話の難しさも深まる現代において、「対話」には何ができるのか？を4冊の書籍を基に考える会を開催しました。

- ・コンテキストとは？
- ・異なる価値観の人と話すのは、なぜ難しいのか？
- ・対話を通して起きる変化とは、どのようなものか？
- ・ポリフォニー（多声性）の場とは？
- ・分断を超える対話を成り立たせるには？

「異なる価値観の人と話す難しさ」のループ図：作成 Kayさん



「複雑さ」との向き合い方を考える

解決策を考える前に 問いかねたいこと

問題を深く理解し、
効果的な解決策へと導く
“問いかね力”を学ぼう
(全3回)



社会問題の複雑さに挑むための 思考と実践のフレームワーク25



複雑な/厄介な問題に向き合い、
社会の変化を生み出すための
問いと解を探る力とは？

2025/6/5(木)20:00～ 全5回

「わかりあえない」から始まる 対話ファシリテーション講座 ～対話の難しさに向き合い、実践力を身に着ける 6か月プログラム

オンデマンド動画講座
+場づくり体験
+実践ふりかえり



組織の運営力を高める

一筋縄では解決できない複雑な社会問題をどう扱い、
課題解決を進めていけばいいのか？

2025/11/19～12/3、1日集中 12/6 2026/2/24

組織や地域の課題に直面した時、すぐに解決策を見つけようとしがちですが、その前のステップ＝「問題の理解」を見直すことが大切です。効果的な解決策に導くための「問題の理解」に焦点をあて、現場で陥りがちな課題を克服し、効果的に進めるプロセスを解説しました。

- 第1回「いったい何が、どう問題なんだろう？」
- 第2回「なぜ問題が起きるのを防げず、未だ解決できていないのだろう？」
- 第3回「本当に解決すべき問題は何だろう？」

2025/06/05～7/31、2日間集中：7/25・8/22

多数の要素が絡む「複雑な問題」への向き合い方、変化を起こすための理論やフレームワークを体系的に学び、実践に活かす考え方を学ぶ講座です。

- 1) 複雑さとは？ それをどう扱えばいいのか？
- 2) 問題の複雑さにどう向き合えばいいか？
- 3) 社会問題を克服するために必要な思考法とは？
- 4) 社会の多様な主体が協調して変化を生み出すには？
- 5) 社会が良くなる(ソーシャルイノベーション)とは？

25/11～ 現在募集中！

社会や組織の様々な場面で「対話」の重要性が指摘されます。しかし、実際に対話の場をつくり、広げていくことは簡単ではありません。私たちは改めて「対話の難しさ」に向き合う必要があります。

対話の力を高めるために、対話の意味を問い、ファシリテーションや場づくりの基礎から参加者との向き合い方、正解のない問いの扱い方、実践体験のふりかえりを通して実力を高める旅を一緒にしてみませんか？

組織や地域の知恵、人をもっと活かすには？

2025/03/27～05/01

地域や組織の課題に取り組む他の実践者の経験を、自分の現場で活かすにはどうしたらいいか？

「学ぶとは？」「先行事例から学ぶには？」から始まり、暗黙知<->形式知で知られる知識創造理論(SECIモデル)の実践法、知識を実践につなぐcommunity of practiceの進め方などから、経験や知識の共有・創造・活用を組織での実践の方法を学ぶプログラムです。

- 1) 他の実践者の経験から学ぶとは？
- 2) 知識創造理論の基礎：SECIモデルとは？
- 3) 知識創造理論の実践：リーダーシップ、マネジメント
- 4) Knowledge to Action ～実践につなげるには？

2025/09/25、11/27

地域の活動を応援する事業では、関係者が多く、思いも多様であるため、事務局がどう動くかによって事業の結果が大きく変わってきます。また、事務局主導になりすぎると、事業は動きますが、住民主体で地域に根づく動きは生み出せません。地域の活動の活性化に役立つ事務局とは、どのようなものなのでしょうか？

第1回では釜石市の復興事業の中で、二宮が取り組んできた事務局の役割をもとに、第2回は山口での平田隆之さんの地域づくりの経験をもとに、事務局の役割と心得について話し合いました。

経験から実践知を学び、行動につなげる！

コミュニティの課題解決力を高める 知識の共有・創造・活用を考えよう



知識創造理論・SECIモデル、
Knowledge Translationを
職場・活動で活かすには？

2025/3/27(木)20:00～ 全4回

地域活動を応援する事業の 事務局って何するの？どこが難しいの？

経験を
シェアしよう！





2025/01/22

empubliが、2016年に発刊した冊子「readiness for 2025」では、経済社会のメガトレンドを踏まえて、2025年には当たり前となるであろう次世代の仕事や働き方を、次世代リーダーが実践し、組織や地域で効果的に定着するために必要なことを整理して提示しています。

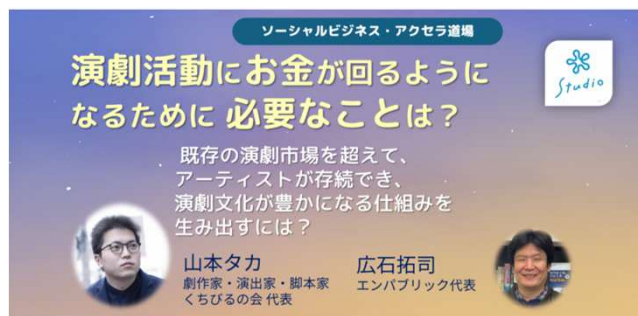
2025年の年始めに改めてこの10年をふりかえり、経済・社会の前提がどのように変化してきているのか、メガトレンドにどう向き合うのか、みなさんと考えました。



2025/9/19

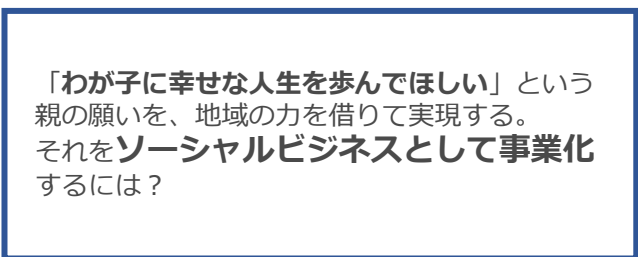
暮らしや仕事の中で、ふとした違和感や疑問を感じ「いつか何かしてみたい」と思っている方や、「自分にできることを探したい」という方が、自分の関心や疑問からどう始めたらいいか。講座＋ワークを通して、最初の一歩を応援するプログラムです。26年も定期的に開催します。

事業化するために、何が必要かを明確にする「ソーシャルアクセラ道場」



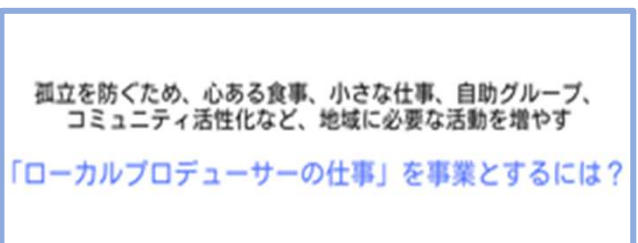
2025/05/12

子どもたちの舞台芸術に触れる機会格差の解消と将来の担い手の育成を目的子どもとする演劇のビジネス・モデル」をテーマに、自分の事業について考えると同時に、地域社会に文化として演劇が根付いていくような事業や仕組みをデザインするにはどうしたらいいのかを考えました。第1回では個別活動以上に市民アート活動を支えるプロデューサーや劇場の芸術監督が大切だということになり、第2回ではプロデューサーをどう事業化するかを考えました。



2025/6/20

子どもに親の考える良い教育を押し付けるのではなく、一人ひとりが自分を理解し「誰のものでもない、自分の人生を生きていく力」を養い、満ち足りた豊かな人生を歩める人を増やしたい。そんな思いから始まった「里山リビング」の前田なき子さんと、これからの社会に必要な子育てと地域の関わりとは？それを事業にするには？を考えました。



2025/08/01

生きづらさを抱える人、社会の波をうまく乗りこなせなくなった人が望まない孤立に陥らずに、地域で暮らしていく仕組みづくりを考える「孤独問題研究所」に宮崎県で取り組むタナベソラさんと、地域のつながりと一人ひとりの生きる力を育むために必要な地域活動を増やすにはどうしたらいいか？活動が増え、運営できるよう支えるローカルプロデューサーを仕事とするにはどうしたらいいか？を考えました。

社会課題解決の事業化・相談会

社会課題解決の事業化・相談会

課題解決を価値創造に転換し、事業とするには？



代表広石が、社会課題解決の事業化に取り組みたい人、取り組んでいるが難しさを感じている人を対象に個別相談を行い、社会課題を解決したい思いをカタチにし、広げていくために、何をどう考えれば事業化を実現できるか、難しさを克服できるかを一緒に考えました。

MIDOLINOの舟木さんは自分のミッション、ビジョンのブラッシュアップに取り組む中で、地域と分かち合いたい自事業の価値を再整理していきました。

ライフキャリアを豊かなものにするために

自分の「仕事観」を言葉にするお手伝いするアプリを開発！



仕事・働き方を考える
自己対話 応援アプリ

仕事観 マルフコーチング

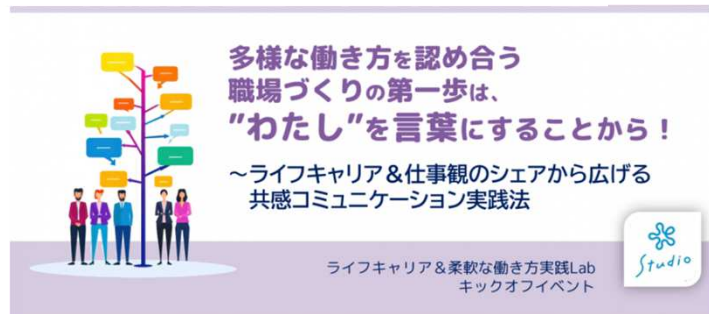
できること

- ① 6つの質問×AIでつくる
仕事観キャッチフレーズ
- ② 「キャリア」「職場」
「プライベート」について
問いに回答し、AIのコメント
をもらいながら、
これまでをふりかえり、
これからを描く自己対話
(セルフコーチング・セッション)
- ③ 自分の仕事観を伝える
ショートプレゼン作成
- ④ 仕事観対話の実践ガイド



2025/07/25～

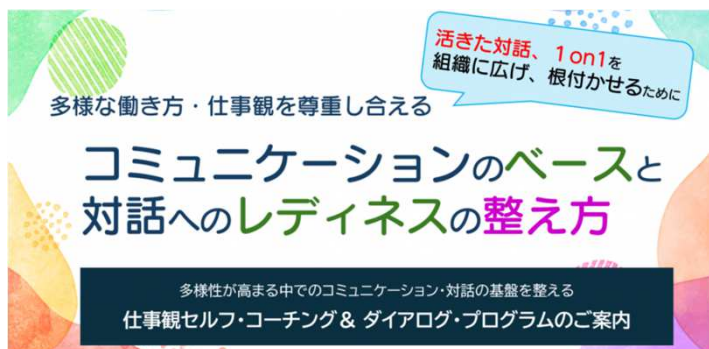
自分のペースで、アプリの問いに回答することを通して頭と心に刺激を与えながら、“わたしの仕事観”を見つけ、言語化していくプロセスを応援するプログラムを実施しました。AIからヒントをもらいながら考えていくうちに、自分の中にある「キャリア」「プライベート」「職場での貢献」で大切にしたいことが見えてきます。合わせて動画講座や対話セッションで他の人と話すことで気づきを深めます。



2025/06/03

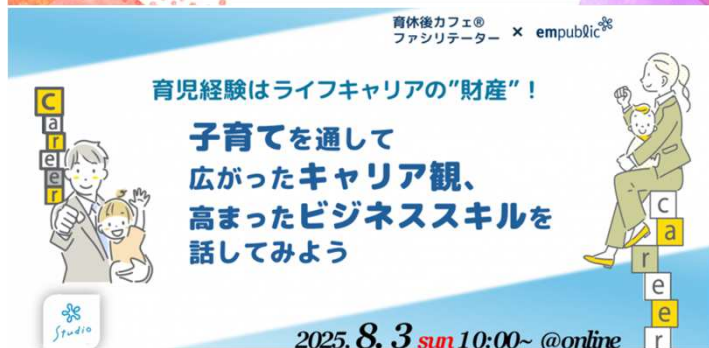
個々のライフステージや働き方、多様性を大切にする「柔軟な働き方」を推進しながら、職場がバラバラにならず、“配慮される人／配慮されない人”の溝も生まれない“インクルージョン戦略”を実現するには、どうしたらいいか？ ライフキャリア&仕事観の対話を活かす組織開発の進め方、個々人がライフキャリア&仕事観を言葉にし、対話に慣れるためのプログラム紹介など、実践手法を解説しました。

一人ひとりが活かされる職場づくりへコミュニケーションを活性化！



2024/12/12～

職場でのコミュニケーション不足が各社で課題となっています。1on1や交流の場も設けてもうまくいかないことも。コミュニケーションの活性化に大切なのは、まずお互いに関心を持ち、相手の話を聴こうとする対話へのレディネス（心とスキルの準備）を整えること。そして、自分のことを言葉にする準備ができていること。その視点から仕事観の言語化とコミュニケーションの意味を解説しました。



2025/08/03

育休や子育ては「仕事の制約」と捉えがち。しかし子育ての時間があり、両立の時間があつたからこそ、気づいたことや自分の成長にもつながっている。育休後ファシリテーターとして活動している方と一緒に、育児を「仕事をエンパワーする機会」として捉え、育児経験をを通して、どのように仕事観が変わったか、そして仕事やキャリアにどう活かしているのかを話し合いました。



2025/9/23

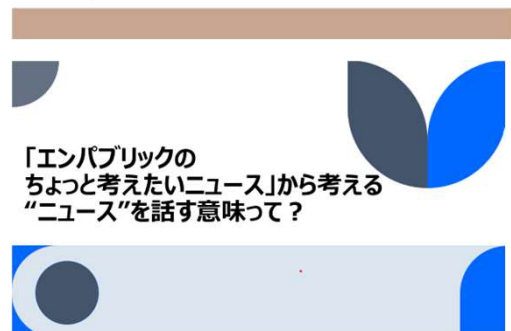
子育てしながら働く人が集まる対話は、単にグチを話す場ではなく、自分自身や周りとの関係性をポジティブに捉え直し、より良く生きていける働きかける力を高める場であってほしい。育休後コンサルタントの山口理恵さんと取り組んできたファシリテーター講座では、育児や仕事についての多様な意見を受け止め、整理し、良い面を引き出す場をつくるための基礎知識と対話ファシリテーションの力を、講座+実践体験を通して身に付けるプログラムです。

スタジオのコンテンツ大解剖シリーズ！

新卒で入社し4年間エンパブリックで活動してきた渡邊さやが、エンパブリックを卒業し、次のキャリアに進むにあたり、これまでしてきた仕事の経験をふりかえり、気づきを共有する会を開催しました。場づくりを仕事としてきた中での、気づきやポイントは。みなさんのヒントにもなると思います！



「ふりかえり」と聞くと、「反省会っぽい」「報告しなきゃいけない？」といったイメージを持つ方も多いかもしれません。しかし、スタジオのふりかえり会は自分の学びや気づきを前向きに捉え、次にどういかにするかを考えることを大切にしています。ふりかえり会の設計の背景やポイント、そして参加者との対話の中での気づきなどを話しました。



渡邊&中村で1年間にわたり、毎週気になるニュースを取り上げ、ニュースが示す社会の動きや課題を、自分たちの視点でもう一歩深く考えるラジオ番組を配信してきました。その中で、単に情報を伝えるのではなく、「私たちの生活にどう関わってくるのか？」「立場や視点が変わると、どんな意味が見えてくるのか？」を探ってきました。ニュースを自分ごととして受けとめる視点の変化や、他の人と考えを共有することで新しい気づき生まれることを実感した経験をふりかえりました。



エンパブリックが開発した「ワークショップデザインシート」の活用ポイントについて深掘りしました。「ワークショップが成功するかどうかは、設計者が“なぜこの場をつくるのか”を言語化できるかどうかにかかっている」というエンパブリックスタッフの気づきをもとに、自身の経験を踏まえ、ワークショップデザインシートを効果的に活用する3つのポイントをご紹介します。



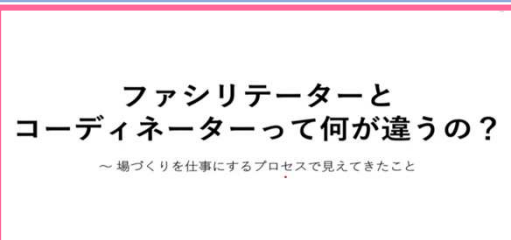
エンパブリックでは、これまでにたくさんの行政案件にも携わってきました。スタッフ自身が行政案件の経験をもとに、行政と民間がどう関わり、パートナーシップを築いていくのか、参加者の皆さんとも意見を交わしながら、「行政との仕事をどう進めるか？」について深掘りしました。案件に関わる中で感じた、行政とのパートナーシップを築くために必要と感じた4つのポイントをご紹介します。



ファシリテーション、インタビュー、ラジオのそれぞれちがった手法での対話を経験してきた渡邊が、「聴くことの意味と特徴」について自身の体験を交えながら、それぞれの役割の違いやポイントを話しました。「聴くことの可能性」についても皆さんと一緒に考えました。



渡邊が能登半島の復興支援活動や三股町のコミュニティラボに出張派遣された経験をもとに、これからの地域づくりに必要な視点や課題だと感じた事をお話しました。ボランティアの受け入れ体制の不足などの課題や、地域づくりは、一朝一夕でできるものではなく、日常の中で関係性を育てることが「いざという時の強さ」につながると感じた経験をみなさんと共有しました。



ファシリテーターとコーディネーターのそれぞれの役割の違いを整理し、地域づくりや社会教育における視点から考えました。どちらかに偏るのではなく、両方の視点を持つ大切さや、両方を行き来できる人が、これからの地域づくりには必要になるという役割について話しました。ファシリテーションとコーディネーション、それぞれの強みを活かしながら、どのように社会に関わっていくか、みなさんと考えました。



<https://empubli-c-studio.jp/12310>

毎月第1水曜20時～開催

Studioメンバーが自分の現場で見つけた問い、Studioのプログラムで「もう少し話したいね」と話題になったテーマを持ち寄り、オンラインのワールドカフェ形式で対話する場を開催しています。テーマ初心者の素朴な疑問が話の突破口になることも多くありますし、日頃考えていないテーマを考えるきっかけになったという声もいただいています。

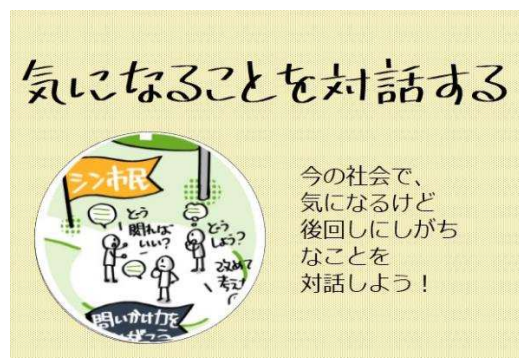
対話の問い一覧 2024年11月～2025年10月	
10月	ラジオ「empubli-cの一語一歩」から気になる言葉で話そう！「界限」とは？
9月	気になるニュースから対話する
8月	本音で語れる時ってどんな時？
7月	気になるニュースから対話する
5月	A I を対話の中で効果的に使うには？
4月	対話に何ができるのか？プレ会「対話についての疑問を出そう」
3月	・これまでの経験や学びを次の人に伝えるには？ ～上手な引き継ぎとは？
25年 2月	・意識の違いで、話しにくさを感じるのはどんな時？
24年 12月	「言葉」をテーマに社会の変化を考えました。 ・最近聞くようになった言葉は？ ・時代の流れとともに使われ方が変わった言葉は？ ・2025年以降「これがキーワードになる！」と思う言葉は？
11月	・人生のワクワク感を引き出すようなワークショップとは何か？ ・自分の中で覚悟に変わる瞬間って？ ・仕事や活動に対して、あなたに自信を与えてくれた経験って？



2025/05/07

AIを対話の活性化につなげるには、何がポイントとなるのでしょうか？AIには問いをつくる、発言のヒントを出す、話をまとめるなど、人と人とのコミュニケーションを活性化できる可能性について、実際にAIを使いながら対話する体験をしながら対話をしました。

AIは最終的な答を出してくれる訳ではなく、AIの答をヒントに考えや話を展開することにおもしろさがあるのではないかと考えました。

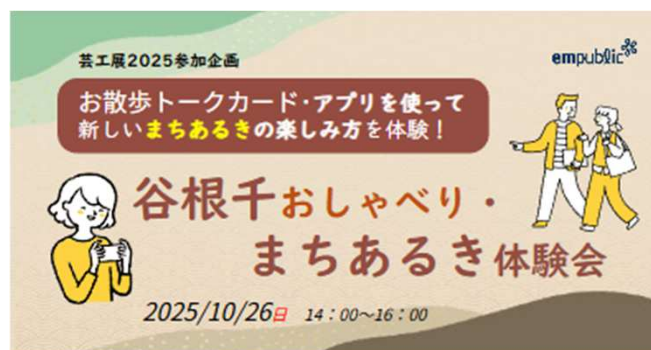


「今、気になっているニュース」を持ち寄って話す会を開催しました。

- ・2025年7月
「退職代行など、最近聞く「代行サービス」って」
- ・2025年9月
「新米の時期！コメの価格にまつわるあれこれ」
「地域医療崩壊の危機！「産科ゼロの自治体」」

異なる地域、専門のメンバーとの対話から、それぞれの地域の課題や工夫などもわかり、ニュースの背景や多様な意味に気付きました。

「地域紹介×おしゃべり」のアプリを使ってまちあるきを楽しもう！



2025/10/26

エンパブリックでは、まちあるきの楽しさを高めるアプリを開発。地域内の各スポットではミニ解説に加えて、その場で話したい「トークテーマ」も提示。地域を知ることができる+参加者同士がおしゃべりをしながらまち歩きを楽しめます。エンパブリックのある谷根千（根津、谷中、千駄木）地区でまちあるき体験会をし、まちを回りながら「思いでの喫茶店は？」など、おしゃべりを楽しみました。



普段何気なく使っている言葉や、最近よく聞くようになった言葉を毎回1つ取り上げ、その言葉から見える今の社会で起きていること、これからの暮らしや仕事に活かせることを解説しています。各回15分程度の一般公開の音声番組です。

Spotifyまたは
Apple Podcastで
毎週木曜16時に
新エピソード配信



Spotify



Apple Podcast



ラジオを聞いての感想や、最近気になっている言葉のお便りもおまちしています。

お便りはこちらから



トークテーマ一覧 第61回（2024年11月）～第115回（2025年11月）

- #61「仕事観」～多様化し、変化する仕事に自分はどの向き合うか？
- #62「やりがい」～行動と気持ちと関係性のいいバランスとは？
- #63「プラットフォーム」～したいことが集まり、新しい価値が生まれる場とは？
- #64「パラダイム」～何が良いかの前提が変わる時代を生きるには？
- #65「組織開発」～人材育成だけでは、なぜ変化を起こせないの？
- #66「パートナーシップ」～一方向でなく、持ち寄る関係とは？
- #67「ヒューグ」～何もしない時間にある価値を大切にしよう
- #68「リラックス」～“休まる時間”への注目が高まる理由は？
- #69「2025」～21世紀らしい考え方が定着する年になる？
- #70「チャレンジ」～新しい挑戦を止めてしまうものは何？
- #71「アサーティブ・コミュニケーション」～自分も相手も大事にする話し方
- #72「心理的資本」～ポジティブさを自分とチームの強みにするには？
- #73「協働」～ほしい仲間は手伝ってくれる人？一緒につくる人？
- #74「システム思考」～目の前の問題の奥にあるものを考えるには？
- #75「成功モデル」～成功モデルを真似ても成功しづらいのはなぜ？
- #76「属人性」～引継ぎがうまくできないのはどうして？
- #77「チャンス」～よいチャンスを引き寄せるには？
- #78「儀式」～形式ばった行事って、どんな意味があるの？
- #79「コレクティブ インパクト」～多様な立場・分野の人が協力して大きな成果を生み出す
- #80「伝える/伝わる」～いくら伝えても伝わらない時、どうしたらいい？
- #81「セルフコンパッション」～‘うまくいかない自分’を大切にできている？
- #82「走る」～6歳のイチくんと考えた、エネルギーの表現としての「走る」
- #83「社会的共通資本」～「みんなのもの」を使いつぶさないために必要なことは？
- #84「ライフキャリア」～「〇〇としての自分」がたくさんあることを大切に
- #85「イシュー」～課題解決がうまくいかない時に探したいツボって？
- #86「トランジション」～人生の変わり目に不安や悩み、どうしたらいい？
- #87「シナリオ・プランニング」～これから起きうる困難さを乗り越えていくためにできることは？
- #88「レジリエンス」～困難にしなやかに向き合える強さって？
- #89「寄り添う」～「一緒にいる」って、どういうこと？

- #90「インクルーシブ」～多様な背景の人が共に、安心して働き、暮らしていくには？+
- #91「総合診療医」～ゼネラリストは複雑さの専門家？
- #92「違和感」～なぜ違和感は口にしにくい？でも、変化は違和感から？
- #93「コミットメント」～責任感を持ってやろうと思う人を増やすには？
- #94「ガバナンス」～思うようには動かない人と共に成果を生み出すには？
- #95「地元プロスポーツチームの意義」～暮らしの中にスポーツがあると何が起きる？
- #96「サーキュラーエコノミー」～「作って売る」までの経済を超えるには？
- #97「ソーシャルビジネス」～社会課題解決を最上位におくビジネスって？
- #98「民主主義」～制度を活かすために必要なことは？
- #99「ルール」～みんなが安心して動ける基盤を整えるには？
- #100「パブリック（公共）」～開かれた関係から未来を共に拓く
100回を迎えました！
- #101「言語化」～曖昧な考えや気持ちを言葉にして伝えるには？
- #102「対話疲れ」～対話ってなんとなく疲れるのはどうして？
- #103「伝統」～“残す”よりも“残る”ように
- #104「社会教育」～色々な場面での学びがつながりを生み出す
- #105「市民として生きる」～社会の中には色々な関わり代はある！
- #106「界限」～まちづくり界限と銀座界限の共通点は？
- #107「構文」～おじさん構文、私の好きな言葉です。からコミュニティづくりのコツが見える？
- #108「シビックプライド」～好きな街を信じることからエネルギーって？
- #109「ドーナツ経済」～成長を目的としない経済のあり方って？
- #110「アクティブ・バイスタンダー」～見て見ぬふりをしないためには？
- #111「地域包括ケア」～高齢期を元気で、支援が必要でも参加できる地域をつくるには？
- #112「里山」～クマ問題をきっかけに人里と山の関係を考えよう
- #113「リジェネラティブ」～「負荷を減らす」から「再生」へ
- #114「自己実現」～“ありたい自分”と“今の自分”との付き合い方は？
- #115「役割」～役割分担って、どうしてうまくいかないの？

政策と地域の関わりを考える新番組がスタート！



Apple Podcast



地域づくりに関わる方や、これから何か始めたい方に、地域で使える新しい政策の目的や背景を解説し、「地域でどのように活かせるのか？」について考えていきます。毎月第3水曜 11:00、新エピソードを公開！

キャスター：

- ・高橋明子（亜細亜大学 特任准教授、総務省地域情報化アドバイザー）
- ・二宮雄岳（エンパブリック、コミュニティ・コーディネーター）

<2025年10月、11月のテーマ>

#2 地域循環共生圏

～多様な人・施策を活かし、環境・社会・経済の問題を同時解決！

#1 地域の事業に外部資金を使おう

～企業版ふるさと納税